

## 支 部 長 挨拶

本年5月の支部理事会におきまして、異前支部長の後を継いで第22期の後半の理事および支部長をおおせつかりました。私自身、以前には3期程全国理事を務め、また九州支部でも支部活動に関係いたしました。最近では学会活動や研究活動とは疎遠になっておりますので、多少不安を覚えています。幸いにも役員の方々は支部活動に長年携わってこられており、また研究の第一線で活躍されておられますので、役員の皆様方のお知恵をお借りしながら、支部発展のために尽力したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

21世紀を迎え、社会経済情勢の大幅かつ急速な進歩に伴い、気象学会を取り巻く状況も急速に変化しております。「地球環境問題」や「気象予報士」に象徴されますように学会と一般社会との接点がますます重要になってきております。たとえば地球温暖化に代表される地球環境問題などについて、学会としてこの問題をどう受け止め、また、その研究成果をどう社会へ還元するかなど、研究の推進と同時に、一般社会との接点としての啓蒙普及活動が非常に重要になってきております。さらに、インターネットに代表されますようにグローバル化が進展し、ともすれば東京一極集中型になってしまうなかで、どのように地域との接点を求めるかも重要な課題であります。

また、気象学会を構成する会員も、従来のように気象庁の職員と大学等の研究者ばかりではなく、気象予報士を始めとするいろいろな分野の人が会員になっておられます。また、若い世代の会員の増加が著しいのも特徴の一つであります。このような情勢の下で、気象庁に代表される気象行政の分野、大学に代表される研究の分野、民間気象事業者に代表される応用気象の分野、これらの分野の連携を図るとともに、世代間の一層の連携を図る必要があります。

北海道支部は会員数は300名あまりで規模は決して大きくはありませんが、従来より夏季大学講座や気象講演会の開催、年2回の支部研究発表会、機関誌の発行など、研究の推進と同時に啓蒙普及活動も積極的に実施しています。

本年度は、第19回夏季大学講座を去る7月25～26日に開催致しました。また、気象講演会を函館市で、「北海道の海・空・大地」というテーマで10月20日に、函館海洋気象台が行います防災気象講演会と共同で実施する予定で準備を進めております。

さらに、来年10月には日本気象学会の秋季大会を札幌市で開催いたします。いよいよ準備委員会も発足し、準備活動も本格化してまいります。また、2003年にはIUGG(国際測地学地球物理学連合)の総会が札幌で開かれます。地球物理関係では最大規模といわれるIUGGの総会が当地で開かれることは支部としても大変意義深いことと思っております。これらの大会の開催に向けて会員各位のご協力をお願い申し上げます。

終わりに、気象学及び学会の発展のために、会員の皆様の支部活動へのご協力とご支援をお願いし、私の挨拶と致します。

(社)日本気象学会北海道支部  
支部長 藤谷 徳之助  
(札幌管区気象台長)